大谷大学・大谷大学短期大学部
博　物　館　学　課　程

2007年度の活動計画

2007年度の文学部・短期大学部の博物館学課程は、前年度の反省を踏まえて立案され、資格取得課程委員会博物館学課程部会で承認された授業計画に基づき、博物館実習Ⅰ担当教員を中心に実施した。

博物館実習Ⅰ（学内実習）

本年度の博物館実習Ⅰ（「2007年度博物館実習Ⅰ（学内実習）授業テーマと内容」参照）は、文学部第３学年を中心に、第４学年・科目等履修生および短期大学部生を含む計27名を対象に、まずはじめに「仏教資料取扱法」（序説）と題して、「総論」から入り、本課程の歴史やねらい、展望などにふれて、受講生に目的意識の明確化を促した。また本課程の特色である「仏教文化財」の内容を概説した。そして、受講生には「仏教資料取扱法」（序説）の内容をふまえて、「仏教文化財について」「受講生にとって博物館とは」などと題するレポートの提出を求めた。このレポート作成は、これまで観覧者の立場にあった受講生を、学芸員を目指す者として動機付けすることを目的にしたものである。また本課程の特色となる古文書読解力の養成強化の観点から、前年度の「古文書解読法」の復習の時間を２コマ設けた。

次いで、前期には、①「仏教遺物資料Ⅰ・Ⅱ」（仏教考古・仏教民俗）、②「古文書」（近世・近代史料）、③「写真撮影実習」等の講義・実習をそれぞれの担当者がおこなった。講義では知識の習得をめざす一方、実習では、実務として拓本、掛け軸、古文書などの取り扱いなどを習得させた。実習に際しては、受講生27名を４班に分けておこなった。各授業ごとに、作成した調査カードやレポートを必要に応じて提出させた。

夏期休暇中、夏期フィールドを８月７日（火）・８日（水）・９日（木）の３日間で企画し、初日に「古文書調査実習」、２日目に「博物館資料撮影実習」、３日目に「博物館等施設見学」という計画を立て、実施した（詳細は「博物館実習Ⅰ（学内実習）夏期フィールド」参照）。終了後、受講生は夏期フィールド参加レポートを提出した。

後期は、④「真宗史料」、⑤「仏教文献資料Ⅰ～Ⅲ」では、真宗史料と東洋・日本の仏教を中心とした文献資料の講義と実習をおこなった。いずれも専門的知識の習得と取り扱い技術の習得に注意した。このほか、近年、博物館でその利用が注目されている情報処理技術と博物館の関係を認知させるために「博物館とマルチメディア」では、スタジオを使用して、講義と実習を実施した。また来年度受講予定の博物館実習Ⅱ（学外実習）での実習生展に向けて事前学習のコマを設けた。

最終授業時には、一年間の授業の総括と、次年度の博物館実習Ⅱ（学外実習）にのぞむ心構えや、博物館実習Ⅰの復習など事前学習の必要性を説明した。

また本年も受講生が主体的にテーマをもって３館以上の博物館・資料館・美術館などを見学してレポートする課題を設けた。これは受講生各自の自覚を促すとともに、学芸員の「現場」での様子を認識させる意図を持ったものである。

博物館実習Ⅰ・Ⅱ合同見学会

例年、博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講生を対象と

して、春秋二季の博物館合同見学会を実施しているが、本年度は次のとおりである。

春季合同見学会は５月20日（日）午後１時30分より京都国立博物館の特別展「藤原道長 極めた栄華・願った浄土」展を見学した。また秋季合同見学会は、11月３日（土）午後１時30分より大谷大学博物館の特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」展の見学と、記念講演会「聖徳太子信仰と法華経」（華頂短期大学教授　田中嗣人氏）を聴講した。それぞれ受講生は見学あるいは聴講した内容をレポートにまとめて提出した。こうした見学会の機会は、上記の夏期フィールドでの施設見学と各自でおこなう年間３館以上の見学、そして春秋二季の博物館合同見学会と、少なくとも４回設けている。

博物館実習Ⅱ事前ガイダンス

本年度の博物館実習Ⅱ（学外実習）の参加に先立ち、６月13日（水）午後４時10分より１号館1110教室で「博物館実習Ⅱ」受講生を対象とした「事前ガイダンス」をおこなった。概要は次のとおりである。

基調講演「博物館の現状と課題」

兵庫県立歴史博物館　小栗栖健治氏

ガイダンス「市町村立博物館と「地域」へのまなざし」

泉佐野市教育委員会　宮田　克成氏

最初に本課程の「博物館概論」を担当していただいている小栗栖先生から、表題のテーマについて、具体的な事例をふまえてさまざまな問題を指摘された。また学外実習参加を目前にした受講生にとって重要な心構えを具体的にご教示いただいた。

宮田先生からは、勤務館「歴史館いずみさの」の概要を例にしながら、市町村立博物館の地域への普及啓発活動のありようについて具体的に述べられた。

講演後、両先生から質疑応答の時間を頂戴し、講演内容のほか、学外実習の細かな点にまで丁寧なお答えをいただき、有意義な事前ガイダンスであった。

終了後、受講生には学外実習のための事務説明をおこない終了した。

博物館実習Ⅱ（学外実習）

本年度の館務実習は、６月・７月・８月を中心にしておこなわれた。受講生は23名（内訳は、大学院２名、文学部19名、文学部科目等履修生１名、短期大学部１名）であった。実習館と実習生数は次のとおりである（「2007年度　博物館実習Ⅱ」参照）。

実習終了後、受講生は各館で実習した内容と反省点をレポートにまとめて提出した。この内容は、次年度の「博物館実習Ⅰ」（学内実習）・「博物館実習Ⅱ」（学外実習）を含む本課程の検討にとって大切な資料となる。また受講生は別に「博物館実習Ⅱで学んだこと」というテーマのレポート要旨も執筆・提出して、本年報（「2007年度博物館実習Ⅱレポートから」）に掲載しているので、参照されたい。

最後に、本年もご多忙にもかかわらず、本学の実習生を受け入れいただき、ご指導を賜った各館の館長および学芸員、関係職員の皆様に厚くお礼を申し上げる。

博物館実習Ⅰ（学内実習）夏期フィールド

本年の博物館実習Ⅰの夏期フィールドは、例年通り①「古文書調査実習」、②「写真撮影実習」、③「博物館等施設見学」の各１日の３日間として実施した。その後、受講生は、夏期フィールド参加レポートを提出した。

〔夏期フィールド〕

○８月７日（火）午前10時～午後４時

「古文書調査整理実習」

場所：本学博物館準備室兼実習室

指導：木場明志・草野顕之

○８月８日（水）午前10時～午後４時

「写真撮影実習」

場所：本学博物館準備室兼実習室

指導：稲城正己・平野寿則・宮﨑健司

○ 8 月 9 日(木)午前 8 時15分～午後 7 時30分

「博物館等施設見学」

引率：平野寿則・宮﨑健司

①たつの市立埋蔵文化財センター

②太子町立歴史資料館

③兵庫県立歴史博物館

本年度は初日に「古文書調査整理実習」、2 日目に「写真撮影実習」、3 日目に「博物館等施設見学」という日程となった。

1 日目「古文書調査実習」では、昨年度に引き続き「山城国笠置村万屋家文書」の調書作成と、目録作成のためのデータベース制作実習をおこなった。2 日目の「写真撮影実習」では、前期授業での基礎知識の復習から、写真撮影の技術の初歩を講義したのち、一人ひとりが、その都度、カメラ・照明などのセッティングして、仏像のレプリカの写真撮影実習をおこなった。最終日の「博物館等施設見学」では兵庫県下の 3 館を訪問し、それぞれの概要等を懇切に説明いただき、施設や展観を見学した。通常では立ち入ることができない、バックヤードの見学は受講生にとって新鮮であったようである。

例年同様、本年の夏期フィールドも、多くの関係者の方々のご指導とご配慮をいただき、無事に 3 日間の実習を終了することができた。

博物館実習Ⅱ受講生の展示実習

本年度も、昨年度に引き続き、博物館実習Ⅱ受講生による実習生展を、大谷大学博物館の秋季企画展「仏教の歴史とアジアの文化Ⅵ」にあわせて開催した。とくに今回は企画展テーマ「久多の大般若経」に連動する展示を行った。

受講生を 3 班にわけ、各班で企画から展示、監視などもおこうとともに、各班で展示解説を実施した。詳細は以下の通りである。

〔実習生展〕

会期：9 月11日（火）～29日（土）

会場：大谷大学博物館

内容：「久多の歴史と文化」

Ⅰ　久多の歴史

（C班：梅澤　木下　島　竹野内　林田　藤本　増田　水谷）

「久多荘・大見荘堺定書」（個人蔵）

「久多荘十人百姓色々公事定書」（写真版・大谷大学図書館蔵）

「久多荘十名田地并御年貢注文」（個人蔵）

「乍恐奉願口上書」（個人蔵）

「久多荘地頭代貞能・朽木荘地頭代祐聖連署和与状」（写真版・大谷大学図書館蔵）

「三宝院門跡雑掌申状案」（個人蔵）

「葛川無量寿院雑掌陳情案」（個人蔵）

「葛川両沙汰人申状案」（個人蔵）

Ⅱ　志古淵神社

（A班：鈴木　竹原　拝原　藤井　山口　安居　横原）

「久多荘田代注進状」（個人蔵）

「山城国愛宕郡久多村寺社書上」（個人蔵）

「山城国愛宕郡久多村寺社書上」（個人蔵）

『京都古習志』（覆刻・大谷大学図書館蔵）

「上下宮祭節句次第定書」(久多自治振興会蔵)

「御宮勘略之事」（久多自治振興会蔵）

「宮殿師竹内平四郎御神輿仕様書」(個人蔵)

Ⅲ　『大般若経』の信仰

（B 班：井尻　尾﨑　北村　佐々木　田中　中辻　中村　安田）

『続日本紀』大宝 3 年 3 月条（大谷大学図書館蔵）

『続日本紀』天平 7 年 5 月条（大谷大学図書館蔵）

『本朝文粋』巻13（大谷大学博物館蔵）

『吾妻鏡』文応元年 6 月条（大谷大学図書館蔵）

『吾妻鏡』弘長 3 年 8 月条（大谷大学図書館蔵）

『吾妻鏡』建長 3 年11月条（大谷大学図書館蔵）

（宮﨑健司）

■2007年度　博物館実習Ⅰ（学内実習）授業テーマと内容

日程	授業テーマ	担当者	授業内容
4/9	仏教資料取扱法	宮崎健司	博物館実習Ⅰのねらいと展望（総論） 仏教文化財について
4/16 23	復習古文書	平野寿則	古文書読解実習
4/30 5/7 14	仏教遺物資料Ⅰ （仏教考古）	宮崎健司	仏教遺物資料（講義） 仏教遺物資料の取り扱い実習 拓本実習
5/21 28 6/4	仏教遺物資料Ⅱ （仏教民俗）	豊島　修	仏教民俗・民俗資料（講義） 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習 掛軸の取り扱い実習
6/11 18 25	古文書 （近世・近代史料）	木場明志 草野顕之	近世・近代史料の種類（講義） 近世・近代史料の取り扱い実習 史料調査法
7/2	写真撮影実習	宮崎健司 稲城正己	フィルムの種類・機能及び撮影上の注意事項 撮影実習
7/16 23	夏期フィールド事前学習	宮崎健司	夏期フィールドの事前学習
8/7 8 9	夏期フィールド	木場明志 草野顕之 宮崎健司 平野寿則 稲城正己	古文書調査実習見学 博物館資料写真撮影実習 博物館・美術館などの施設見学
9/24 10/1	真宗史料	三木彰円	真宗史料（講義） 真宗史料（聖典・絵画）の取り扱い実習
10/8 15	仏教文献資料Ⅰ （東洋仏典）	采睪　晃	大蔵経の種類（講義） 漢訳大蔵経の取り扱い実習
10/22 29	仏教文献資料Ⅱ （漢籍中心）	浅見直一郎	漢籍・中国資料の概要 漢籍取り扱い実習
11/5 19	仏教文献資料Ⅲ （日本仏典）	沙加戸弘	日本書誌学の基本（講義） 仏教文献資料の取り扱い実習
11/26 12/3	博物館とマルチメディア	松川　節	博物館における情報処理技術（講義） デジタル映像撮影実習
12/17 1/7	博物館実習Ⅱ事前準備	宮崎健司 平野寿則	次年度「実習生展」事前学習
1/21	総括	宮崎健司	本年度の反省と博物館実習Ⅱにむけて

■2007年度　博物館実習Ⅱ（学外実習）

実習館名（館長名）	実 習 期 間	実習生名
大阪市立美術館（西澤由美子　館長）	6 /29～ 7 / 6 （除く 6 /30、 7 / 1 ）	増 田　　景 中 村 有 里
滋賀県立琵琶湖文化館（宮本忠雄　館長）	7 / 3 ～ 7 / 7	安 田　　峻 島　　崇
髙津古文化館（髙津利治　館長）	7 /11～ 7 /14	山 口 陽 平 竹野内宏美
大阪城天守閣（深堀克明　大阪市ゆとりとみどり振興局局長）	7 /30～ 8 / 2	北村麻里子
池田市立歴史民俗資料館（田中晋作　館長）	8 / 1 ～ 8 / 5 8 /22～ 8 /26	藤 井　　萌 梅澤のど佳
浜松市博物館（原田昌典　館長）	8 / 6 ～ 8 /11	横 原 礼 香
奈良県立民俗博物館（森岡康憲　館長）	8 / 7 ～ 8 /11	藤 本 逸 美
栗東歴史民俗博物館（佐々木進　館長）	8 /14～ 8 /17	中 辻 理 恵 竹原かおり
京都市歴史資料館（井上満郎　館長）	8 /21～ 8 /24	井尻裕佳子
霊山歴史館（谷井昭雄　館長）	8 /21～ 8 /24	佐々木理子 鈴 木 亜 美 田 中 沙 季
大津市歴史博物館（松浦俊和　館長）	8 /21～ 8 /25	木　下　香 水 谷 文 乃 林田久美子
近江八幡市立資料館（河内美代子　館長）	8 /21～ 8 /24	安 居 里 美
日本民家集落博物館（井藤　徹　館長）	8 /23～ 8 /26	尾 﨑 俊 文
大阪歴史博物館（脇田　修　館長）	8 /27～ 8 /31 （除く 8 /28）	拝 原 祥 子

■学芸員資格取得者（2008/ 3 /18付・第19期生）

〔大　学　院〕 藤井　　萌・尾﨑　俊文

〔文　学　部〕 佐々木理子・井尻裕佳子・梅澤のど佳・北村麻里子・木下　　香
鈴木　亜美・田中　沙季・中辻　理恵・拝原　祥子・増田　　景
水谷　文乃・山口　陽平・横原　礼香・藤本　逸美・安田　　峻
竹野内宏美・竹原かおり・中村　有里・林田久美子

〔科目等履修生〕 島　　崇

（22名）

■博物館学課程単位取得者（2008/ 3 /18付）

〔短 期 大 学 部〕 安居　里美

（ 1 名）

2007年度博物館実習Ⅱ　レポートから

私は8月1日から5日までの5日間にわたって、池田市歴史民俗資料館で学外実習を行った。資料館の展示資料は池田市に関わる考古や歴史、民俗、美術工芸資料である。資料館の利用者は何度も利用する近隣住民のリピーターが多いようである。展示替えは、資料保護の上で必要なことではあるが、資料館はリピーターにも対応できるように展示替えを行っている。これは、この資料館の持つ特徴である。5日間の実習を通じて、資料館の置かれている現状を知り、職員数・収蔵スペースの確保・施設の老朽化など学芸員の抱える課題の多さを学んだ。実習を通じて、博物館の展示や展示方法に関してだけでなく、見学者の様子をみるという新しい視点を学んだ。学芸員が展示を通じて伝えたいことが見学者に本当に伝わっているのか。見学者の動向を観察することの大切さを学んだ。5日間という限られた時間であったが、貴重な体験をすることができた。

大学院修士第2学年(仏教学専攻)　藤井　萌

＊　＊　＊

8月23日から26日の間、大阪府豊中市服部緑地公園の一角にある日本民家集落博物館において実習をさせて頂いた。実習にあたり、展示物である民家の掃除や障子張り、繭玉人形作り教室の指導補助や民家の解説などを行い、実際の学芸員が日常に行う仕事を学ぶことができた。この博物館には外国人の来館者も多く、解説を行った時に英語の説明書や語学力の必要性も痛感した。広大な野外博物館であるこの博物館では、囲炉裏の管理や民家の解説、体験教室の指導や景観保全などにボランティアの方の力も借りている。それは博物館を存続させる上で大きな役割を果たしており、博物館と地域との協力のあり方を垣間見ることになった。体験教室など学芸員としては一見雑務であることも博物館運営にとって重要であると改めて感じた。文化財の調査・研究ばかりに気が向きがちな私にとって大変貴重な経験となった。実習中お世話になった方々に深く感謝し、御礼を申し上げたい。

大学院修士第2学年(仏教文化専攻)　尾﨑俊文

＊　＊　＊

8月下旬、私は京都東山の霊山歴史館において実施された、博物館学課程の学外実習に参加させていただいた。実習は主に講義が中心で、学芸課長である木村先生をはじめ、博物館で働いている方々から館における管理運営等様々なことを教授していただいた。実際に館で働く方々のお話は、博物館業務に関わる話だけでなく、一体歴史は私たちに何を伝えようとしているのか、などの奥深い話もあった為、私自身改めて、博物館というひとつの機関が何を人々に伝えていくべきなのか、そのために学芸員はどのような行動を起こしていかなければならないのかなどを考える大きな契機となった。短い期間ではあったが、実際に博物館側に立って物事を考えることで、今までと違う見方や考えができ、このような機会を与えてくださったことに改めて感謝したい。

文学部第4学年(仏教学コース)　佐々木理子

＊　＊　＊

私は８月21日から24日の４日間、京都市歴史資料館で実習をさせて頂いた。主な実習内容としては、古文書の分類、整理といった作業であった。今回扱った文書は、私の地元である山科の郷士の家の文書であったため、知っている地名等が多数見受けられ、とても身近に感じられた。まだ手付かずの状態の文書に、直接触れることができ、とても貴重な体験をさせて頂いた。同時に学芸員ならではの楽しみを感じられたと思う。調査カードに一つ一つ文書のデータを記入する作業は、地味な作業ではあるが、この作業こそが一番重要で、調査カードを作成した人に、その文書の全責任がかかると宇野学芸員に教わり、責任の重大さを感じた。この実習を通して、博物館の仕事や、生の声を聞くことができ大変貴重な体験ができた。４日間という短い期間ではあったが、有意義な時間を過ごせたと思う。この実習で学んだことを今後に生かしていきたい。

文学部第４学年(国史学コース)　井尻裕佳子

＊　＊　＊

８月22日から26日の５日間、池田市立歴史民俗資料館で実習をさせていただいた。実習内容は外国切手の目録作成作業が中心であり、１日中パソコンに向かい目録作成作業を行なう日が続いた。作業は大量の切手をカタログの中から探し出し Excel で打ち込んでいくというものであった。とても地道な作業で集中力と忍耐が必要であった。切手の目録作成作業の他にも、池田市にあるインスタントラーメン発明記念館見学・池田城跡発掘調査現地説明会見学・池田城跡公園見学など様々な体験をさせていただいた。また、館長から現在の博物館の現状や役割、他の博物館との展示目的や情報の伝え方の違いなどの貴重なお話をしていただいた。実習を通して学芸員の仕事の大変さや博物館の役割について改めて学ぶことができた。５日間という短い期間ではあったがとても有意義な実習であった。

最後に実習を受け入れてくださった池田市立歴史民俗資料館の皆様に感謝したい。

文学部第４学年(国史学コース)　梅澤のど佳

＊　＊　＊

私は、７月30日から８月２日まで大阪城天守閣で博物館実習をさせていただいた。

この博物館実習では様々なことを学んだ。

特に文化財というものは、一つの視点からだけではなく、たくさんの視点から見るものだと改めて学んだ。

それは、「大坂夏の陣図屏風」という屏風を使って解説文を書いたときに分かった。12人の実習生が一人一人別々のところに注目し、全く違う解説文をかいていたからだ。

今まで、私自身は文化財というもの一つの視点からしか見ていなかったので、色々な視点から見られると知ったこの経験はすごく貴重だ。また、この経験から文化財というのは色々な視点から見ることが出来るので、様々な人が文化財について自分なりに考えてみて欲しいと思った。

この他にもたくさんの貴重な体験をさせていただき、自分自身の考え方がすごく変化した４日間だった。

最後になったが、大阪城天守閣の皆様には、お忙しい中お世話になり、お礼を申し上げたい。

文学部第４学年(日本仏教史学コース)　北村麻里子

＊　＊　＊

大津歴史博物館での５日間の実習を通し、昨年度博物館実習Ⅰで学んだことを実践し、また体験することで理解を深めることができた。これまでの講義で学んだことは知識として持っていたが、やはり現場で実際に体験し、知識だけでは限界があると感じ、有意義な実習となった。乗念寺の宝物調査とその宝物公開の展示作業、園城寺の棟札調査と金堂

の葺き替えの見学、博物館現状とこれからのあり方についての講義など、貴重な体験をさせていただいた。この実習を通して、博物館で働くということを改めて考える機会となった。これまでは、客観的な立場（どちらかといえば利用者の立場）で、博物館という機能や事業内容などを捉えていた。しかし、短い期間ではあるが実際に体験することで、博物館や学芸員の仕事に対する自分の考えや立場を考える機会となり、充実した５日間であった。また、この実習から得た体験を、今後の自分に生かしていきたい。

文学部第４学年(国史学コース)　木下　香

＊　＊　＊

私は幕末・明治維新に関する展示を行っている霊山歴史館で８月21日から24日まで４日間、実習に参加した。実習はほとんどが講義で、博物館の運営に関することや博物館の現状、展示方法などを学んだ。実習では火縄銃、掛軸、刀剣の手入れを学んだ。学芸員の方の話を聞いたり、実際に文化財に触れることができ、参考になった。ここで学んだことを今後に生かしていきたいと思う。

文学部第４学年(日本仏教史学コース)　鈴木亜美

＊　＊　＊

８月21日から24日までの４日間、霊山歴史館で博物館実習をさせていただいた。実習の内容は講義が主であったが、資料の扱いや学芸員の業務など学ぶところばかりであった。特に、学芸課長の木村幸比古氏のお話はとても興味深いものだった。その中でも「見てもらうために見せる側にはユーモアが必要」という木村学芸課長のお話が印象的だった。このお話の通り学芸課長をはじめ人をひきつける魅力のある方ばかりで、すばらしい方々に出会う事ができたと思う。この博物館実習は人生においても有意義な時間であったと感じる。このようなとてもよい経験をさせていただき、お世話になった方々に感謝を申し上げたい。

文学部第４学年（国史学コース）　田中沙季

＊　＊　＊

私は８月14日から17日までの４日間、栗東歴史民俗博物館で実習させていただいた。実習では講義や調査、体験学習をさせていただき、充実した４日間となった。講義では、博物館が参加型・参画型へと変化してきたこと、これからの博物館に何が求められているのかといった話を伺い、ただ見るだけでなく手にとって感じることの大切さや地域との関わりの重要性を学んだ。調査では古文書を扱った。実際に資料に触れるということで緊張の連続であったが、この緊張感を持って、資料の調査に慣れても決して忘れてはならないことである。体験学習では教育の観点からの勉強になった。どうすれば子どもたちが興味を持ち、楽しんで勉強できるのか、様々な工夫がこらされていた。学芸員の方々は皆さんこの仕事が好きで誇りを持ってやっておられる姿に感動した。大変お世話になり深く感謝したいと思う。

文学部第４学年(日本仏教史学コース)　中辻理恵

＊　＊　＊

大阪歴史博物館での実習は、博物館が抱えている問題について学芸員の方から直接話を聞くことができた貴重な経験となった。総じて多かったのが、「現在博物館が社会から求められているものに応えることも重要だが、本来博物館がすべきことを学芸員が見直す必要があるのではないか」というものだ。博物館が、利用者の興味を引くためにアミューズメント化しすぎて、新しい情報を発信する事に躍起になってしまってはいないか。学芸員は現代社会に対して、ひとつのモノ＝情報をじっくり吟味する風潮を失ってしまってはいないかということを呼びかけるべきではない

か、という話が印象にのこっている。社会が求める事に応えることも大切であるけれども、自分がしていることの意味を、もう一度考えるべきであると改めて認識させられた言葉である。この実習は、自分にとって非常に意味のあるものとなった。ありがとうございました。

文学部第４学年（日本仏教史学コース）　拝原祥子

＊　　＊　　＊

私は大阪市立美術館で実習を行なった。その内容は全関西美術展という特別展での作品の搬入、展示などであった。

それは展覧会における最後の仕上げ部分であったが、その作業のみに関わったにもかかわらず、一週間の実習中はとても疲労が溜まったように感じた。実習で行った作業に慣れていなかったせいもあるだろう。しかし美術品の搬入や展示は、考えていた以上に大変な、難しい仕事だった。だが私が体験したのは美術展全体のほんの一部に過ぎない。本来ならば美術展の企画をはじめ、美術品の借り入れ、返却など、他にも無数の作業を行わなければならないのである。

何気なく観覧してきた展覧会だが、裏側では想像以上の苦労があった。しかし作品の展示が完成した時の感慨は、筆舌に尽くし難いものであった。実習生でさえそうであったから、学芸員の先生方はさらにそれが大きかっただろう。その感慨が学芸員の仕事をさらに輝かせているのだと感じた。

文学部第４学年（東洋仏教史学コース）　増田　景

＊　　＊　　＊

８月21日から25日までの間、私は大津市歴史博物館で実習をさせて頂いた。今までに何度か訪れた事のある館だった為、肩の力を抜いて気楽に行こうと思っていたのが間違いだった。実習内容は、掛軸や棟札の取り扱い（調書）・実習生展示・檜皮葺の見学など、述べてしまえば一言で、極単純な作業のように聞こえるが、これが実際は神経を磨り減らす作業だったのだ。学内実習で経験した作品を取り扱う時の緊張感が一日中続き、尚且つ単純作業の繰返し。根気と集中力のいる作業ばかりで、初日から疲労困憊だった。

しかしながら、この経験をしたからこそ「学芸員の大変さ」を知ることが出来た。唯護るだけではなく、展示による知識の共有。そして、その裏の大変な作業。今回の貴重な経験から、学芸員は、「大変」であるが故の大事な意義を持っている仕事であるという事を学んだ。

文学部第４学年（日本仏教史学コース）　水谷文乃

＊　　＊　　＊

私はこの博物館実習で様々な事を学んだ。７月に北野天満宮の近くにある高津古文化会館で実習をさせていただき、私達のために色々とご尽力してくださった事が印象に残っている。その中でも、刀剣や甲冑の保存方法や展示方法を、実物を使いながら学べた事は、私の中で特別なものになっている。また、実習生展示では仲間と相談し協力して、自らも学びながら展示を行うことができた。普段の生活の中では、まず触れることのないものに多く出会えた博物館実習は、私の大学生活の中で大切な時間であったと今、振り返って感じている。実習の中で学んだ知識はもちろん、やるべき事に根気よく向かっていく姿勢を大切にしながら、これからの私の生活の中に生かし続けられるようにしたいと思った。

文学部第４学年（国史学コース）　山口陽平

＊　　＊　　＊

８月６日から11日までの６日間、浜松市博物館で実習をさせて頂いた。古文書の整理や公民館にある郷土資料室の展示替えのほか、班ごとに小学生向けの解説計画を立てたり、

「夏休み親子体験館」で勾玉づくりや紙すきの体験補助をしたりと、博物館で教育普及のために実践していることにも関わることができた。市の博物館では、展示・解説や体験コーナーに工夫を重ねて、地域の人々に必要とされる博物館をつくっていかなければならないのだと感じた。また史跡公園内の清掃も行い、昔のままの状態を保っていくことがどれほど難しいことなのかを知った。地方の博物館はその地域の過去・現在・未来を繋ぐ場所である。そこに実習生として、少しの間ではあるが参加させて頂いたことを、とてもうれしく思った。

文学部第４学年(国史学コース)　横原礼香

＊　＊　＊

８月７日から11日までの５日間、奈良県立民俗博物館での博物館実習に参加させていただいた。実習を始める前に、当館の長所や短所を見つけ、その改善方法を考えるといった課題を与えられ、最終日に発表するということを意識しながら実習を進めることとなった。実習内容は、資料の登録作業として、登録カードの作成や写真撮影、パソコンでの画像加工や資料一覧表の作成等の様々な内容に及んだ。取り扱った資料の中には、奈良県指定の有形民俗文化財があり、収蔵庫での資料整理作業でも多くの資料に触れることができた。また、当館は広大な大和民俗公園を伴っており、屋外展示の古民家の中へも特別に入らせていただき、本当に多くの貴重な体験をさせていただいた。それらを通して、学芸員の仕事の多様性を実感でき、初日に博物館運営に関する課題を与えられたことで、博物館の今後のあり方を考える学芸員の方の立場も理解できる有意義な機会となった。

文学部第４学年(国文学コース)　藤本逸美

＊　＊　＊

私が今回、博物館実習をさせていただいた滋賀県立琵琶湖文化館では、５日間をかけて実習を行った。実習内容は私が思っている以上に濃厚な内容で、この５日間が短く感じられるものであった。

まず館長の話で知ったのだが、琵琶湖文化館は古くから博物館実習生の受け入れをしている博物館で、私たちが50回目になるそうである。やはり古くから受け入れをしている博物館なので、ノウハウが培われているのだと感じた。

講義と、調査の二つの内容にわかれていた実習は、そのどちらも私たち自身が考え、動くことを促す内容で、実際に仏像の装飾に触れたり、お経を結ぶときにどうやって結ぶかなどの細かな作業方法まで丁寧に教授していただき充実した５日間であった。また、博物館の学芸員の方だけでなく、調査学習の中で野洲の地域の人々との連携の大切さ、交流の大切さを学ぶことは博物館において実習することの重要性を持っていると理解した。

文学部第４学年(国文学コース)　安田　峻

＊　＊　＊

７月11日から14日の４日間、高津古文化会館で実習をさせていただいた。実習内容は、これまで館が行ってきた活動について紹介していただき、工芸品、刀剣、甲冑、絵画、などの古美術品の取り扱いを行い、最後に、写真撮影の実習を行った。それぞれ講義を行ってから実際に調書をとったり、手入れなどの作業を行った。高津古文化会館は、春・秋の２回の特別展のみ行う。３階展示室は露出展示しか行えないのだが、小さな博物館だからできるのだという。館外活動で、海外でも協力しているという。海外での展示を日本と比較した話も印象的で、資料をいかに慎重に扱う必要があるのか改めて感じることができた。また、幅広い分野のモノが集まり、それぞれに膨大な知識や用語があり、確実に調べ上げていくことの難しさが今回の実習で一番

感じたことである。今回の実習で学んだこと一つ一つを今後に生かしていきたい。
文学部第４学年(中国文学コース)　竹野内宏美

＊　＊　＊

８月14日から17日までの４日間、栗東歴史民俗博物館で実習をさせて頂いた。実習では、館長のお話や館内見学も交え、美術工芸品と古文書の取り扱い法および調査作業を行った。「二十五菩薩面」の調査の実習では資料を燻蒸庫から出すところから始まり、調査カードの作成をさせて頂いたが、調査とは単に資料の名称を調べ、法量を測るだけでなく、「結論」にまで持っていかなければ終わりではないということを教わった。調査は、本当に地道な作業の繰り返しである。しかし、地域の共有遺産である資料の情報を得るために必要な学芸員の大切な仕事であると気付かされた。また、最終日には体験教室の取り組みについて学んだ。学芸員には専門性と同時にコミュニケーション能力も求められるものであり、博物館は時代の流れも次の世代に伝えていく場であると改めて実感した。短い期間ではあったが、学芸員の仕事を肌で感じることができ、大変有意義な４日間であった。
文学部第４学年(国際文化学コース)　竹原かおり

＊　＊　＊

６月29日、７月２日から６日までの６日間、大阪市立美術館で博物館実習をさせていただいた。実習内容は第53回全関西美術展開催の準備作業を中心とし、館内見学、工芸・絵画の取り扱い実習、講義など、大変充実した６日間であった。特に全関西美術展の準備作業では、実習生でありながらも作品の搬入から審査・陳列と、展覧会が形になるまでの重要な過程に関わらせていただき、緊張の連続の中、その責任の重さを再認識した。同時に、職員の方々の市民や出品者への心のこもった細やかな対応を間近で見、学ぶこともできた。美術館を他ならぬ市民のものと考え、小さなことにも誠実に向き合う職員の方々の姿勢は心打たれるものであったし、学芸員を志す者として、これからの目標ともなった。皆さんがプロフェッショナルとして忙しく仕事をしておられる中、私たちのような未熟な実習生を受け入れ、様々な貴重な経験をさせてくださったことに本当に感謝している。
文学部第４学年(国際文化学コース)　中村有里

＊　＊　＊

大津市歴史博物館で８月21日から25日の５日間実習をさせていただいた。実習は乗念寺の掛軸の調査と展示を中心に、園城寺金堂の屋根の修復現場の見学や棟札の調査、本物の浮世絵とレプリカの比較など幅広く行なった。講義では博物館の現状とこれからについて学んだ。掛軸を調査して調書を取る作業は、記録として残るものだと思うと間違いがないようにしなければならないと感じ、慎重に行なった。軸の中には触れるのもためらうほど傷んでいるものもあり、さらに慎重になる場面が多くあった。調査した掛軸の展示作業では、実習生全員で協力して来館者が見やすい展示になるよう相談し注意し合った。実習を通して学芸員に大切なことを多く学べた。ものを扱う慎重さは勿論だが、協力し合うことや来館者の目線に立つことのように人との関わりも大切であることを改めて感じた。授業では学べない貴重な体験をさせていただいたと思う。
文学部第４学年(国際文化学コース)　林田久美子

＊　＊　＊

７月上旬の５日間、私は滋賀県立琵琶湖文化館で館務実習をさせて頂いた。実習内容は、博物館の管理運営等の講義や、文化財を用いての調査と取り扱い方について学んだ。この講義の際、「立っている人は上司でも使え」という言葉を学芸員の方から教わった。

資料を扱う際に無理に一人で作業したために資料を傷つけるというリスクを無くすためである。また、互いに声をかけ合い、周りの人は相手を補佐し、事故を予測する。そのためには日頃から他人との良い関係を築く事が大切であり、積極的にコミュニケーションを取りなさいと仰っていた。3日目・4日目に野洲市にある顕了寺所蔵の一切経の調査実習を行ったのだが、この時言葉の意味を実感した。実習は他大学の学生も多く参加していたため互いに遠慮する場面もあったが、次第に気配りも出来るようになり、作業も正確にスムーズになっていった。この実習でより広い視野を持つ事ができた事に深く感謝したい。

文学部科目等履修生　島　　崇

＊　　＊　　＊

私は近江八幡市立資料館で8月21日から24日までの4日間、実習させていただいた。実習では軍服・写真等を薄葉という紙で丁寧に梱包し、翌日、それらを返却するために個人のお宅へ訪問し、手渡すという貴重な体験をさせていただいた。この体験は私に、学芸員にはコミュニケーション能力が必要不可欠という教訓を与えてくれた。他にも産着の調査を1日半かけて行い、館長の指示に従い、男女の産着の違いをみつけ、産着について考える時間をたくさんいただいた。ここでは、モノの見方ひとつで調査結果が大きく変わる怖さを知った。様々な作業を通じて、学芸員の仕事はどの作業も単純ではあるものの、観察力・体力・知識のすべてを使わなければできないように感じられた。また、まだそのどれも十分に足りていないと感じた。これからさらに知識・技能の修得と観察力に磨きをかける必要があると思う。すべて持っている学芸員の方はやはり素晴しいと思った。

短期大学部第2学年（文化学科）　安居里美

＊　　＊　　＊